

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

| 学校名        | 埼玉県立熊谷女子高等学校                                       | Cグループ   |
|------------|--|---|
| 項目         | 調査の観点  | 取組状況に関する所見  |
| 目指す学校像     | 目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。                    | 学校として目指す方向が明確に示されている学校像である。生徒の実態や学校の現状に応じた適切なものであり、「次世代の社会をリードする」という部分に反映させるなど、生徒・保護者・地域などの期待に十分応えるものとなっている。                                      |
| 重点目標       | 学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。 | 学校の取り組むべき方向が四つの柱として設定されている。目指す学校像を踏まえ、学校の取り組むべき課題が明確かつ具体的に示されており、日々の教育活動の指針となっている。  |
| 重点目標達成への取組 | 重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。                   | 学校自己評価システムを運営する組織が明確に位置付けられている。学校全体の目標を踏まえ、分掌・学年等で検討する方策等を再び学校全体のシートへフィードバックして相互の連携を図るなど、学校自己評価の運営体制について工夫ができると更に良い。                              |
|            | 方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。                           | 企画委員会で方策を策定し、課題の解決のために取り組んでいる。方策や評価指標がやや抽象的であるので、評価項目の達成に向けた具体的な方策を策定し、教職員間でその達成イメージを共有できるような分かりやすい指標を設定することが望まれる。                                |
|            | 校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。        | 校長は、中期ビジョン「県北の地を拠点とした、『世界標準 (global standard) の高校』へ」を示すなど、明確な学校経営の方針を持ち、取り組んでいる。校長の的確なリーダーシップの下、全教職員が共通理解を深め、課題の解決に向けて、学校全体として更に組織的に取り組むことが期待される。 |
|            | 学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。        | 学校関係者の意見やアンケート結果を教職員に示し、達成状況や課題の共通理解を図っている。学校関係者の意見やアンケート結果等を詳細に分析して新たな課題の析出や方策の見直しを検討するなど、CAからPDのつながりを意識して次年度のより具体的な取組につなげるようにしていただきたい。          |
| 特記事項       |  |   |